

「新型コロナウイルス感染症についての実態調査」

2021年度版

日本産婦人科医会

医療安全部会

わが国の分娩取り扱い施設における 新型コロナウイルス感染症についての実態調査 2021年度版

【背景と目的】

- 2020年7月に「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)についての実態調査」を実施し、感染第1波における妊産褥婦のCOVID-19の発生状況と感染妊婦の転帰、院内感染予防対策の実態などを把握し、その結果を記者懇談会や医会報を通じて速やかに情報発信した*。
- 2021年7月の段階、第4波が収束しつつあるが、これまでに多くの妊産婦が感染し、医療体制がひっ迫する事態も生じた。今後の感染流行の再燃に備え、妊産婦の感染状況を再度把握することが必要と考えられた。
- そこで、第2波以降の感染妊産婦の発生状況、重症度の割合、感染中の分娩状況の実態を把握することを目的として本調査を施行した。

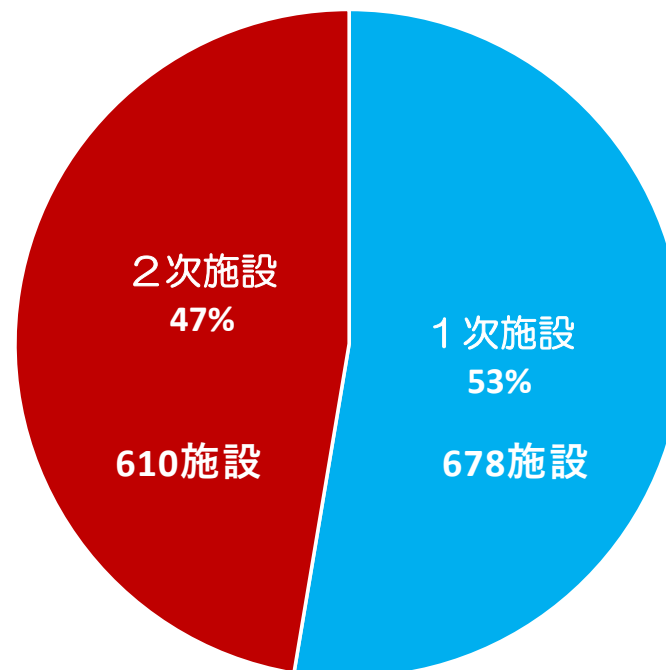
* Arakaki et al. *BMC pregnancy and child birth* 2021
Hasegawa et al. *PLOS one*, 2021

わが国の分娩取り扱い施設における 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)についての実態調査 2021

倫理委員会承認審査番号	日産婦医会発第80号
方法	アンケートによる全国調査
調査期間	2021年7月12日～8月31日
回答依頼	分娩取扱施設の産婦人科責任者
調査内容	2020年7月～2021年6月末までの各施設のCOVID-19への対応について
	調査票1
	- 各施設のCOVID-19確定患者の診療経験について - 各施設のCOVID-19確定・疑い患者の対応について - 各施設のスクリーニング検査の実際について
	調査票2
	COVID-19確定患者の詳細について

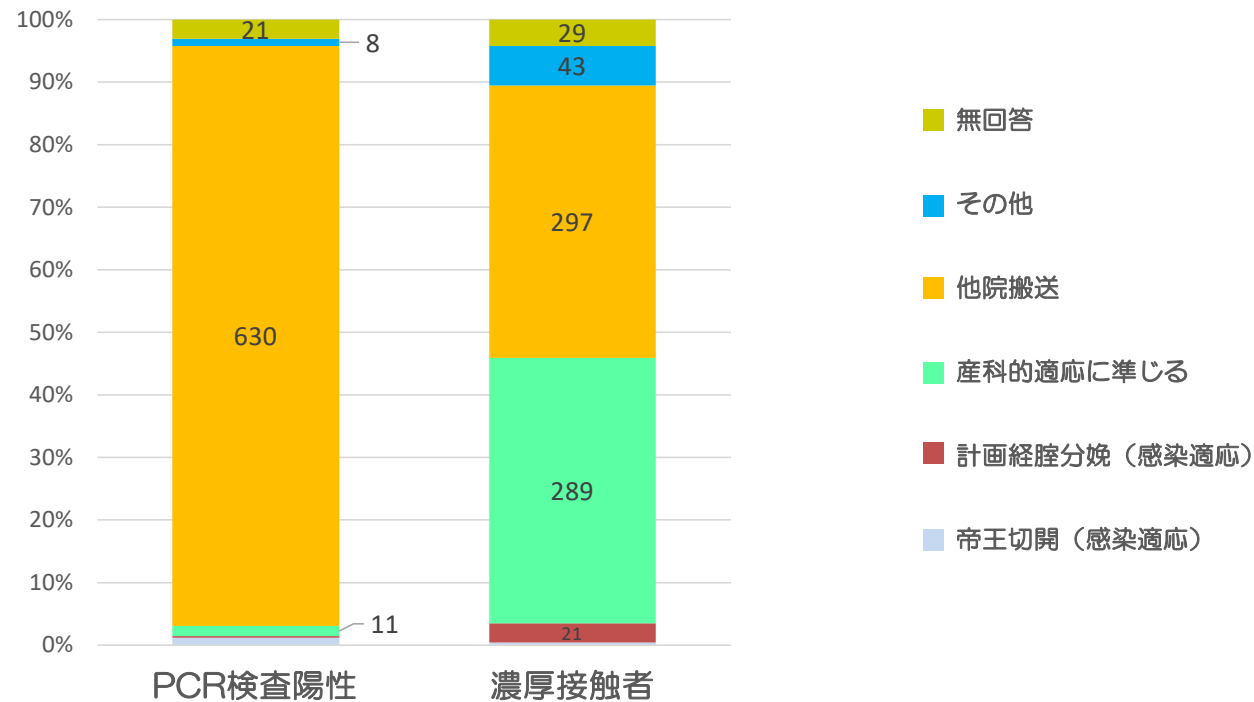
回答施設の属性

発送数 : 2,135施設 (1次施設 1,153、2次施設 982)
(総分娩数 839,102)
有効回答 : 1,288施設 (総分娩数 531,364: 分娩数比63.3%)
回収率 : 60%



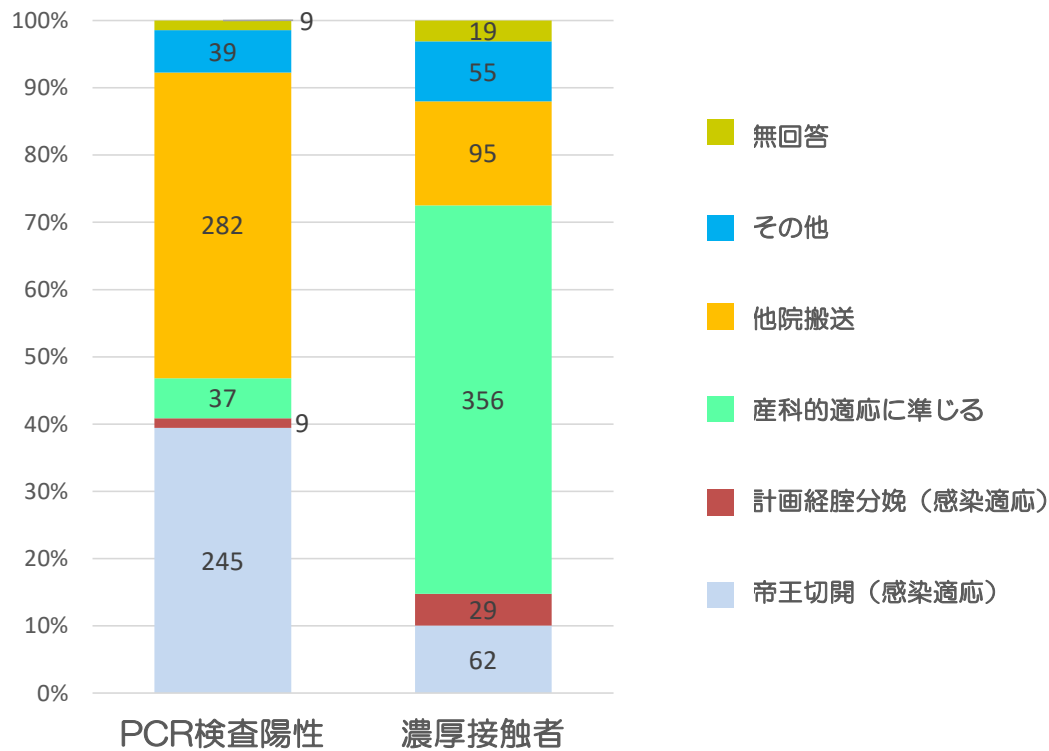
COVID-19診断妊婦が妊娠37週以降に陣痛発来・破水した場合の対応方針

【診療所】

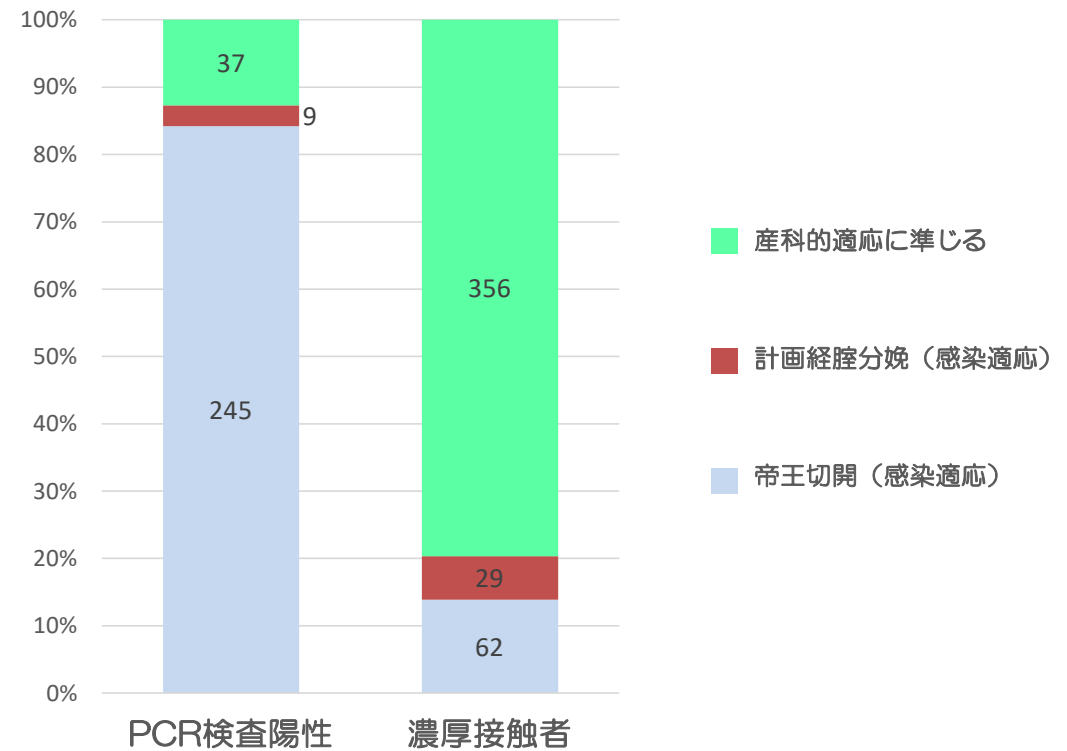


COVID-19診断妊婦が妊娠37週以降に陣痛発来・破水した場合の対応方針

【病院】



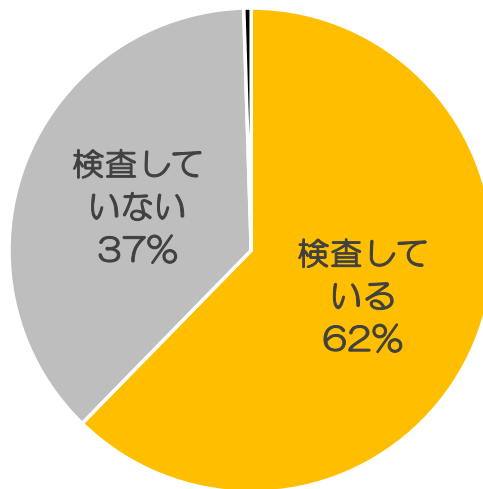
【病院（搬送のぞく）】



第1波の際の帝王切開選択率83%と同様

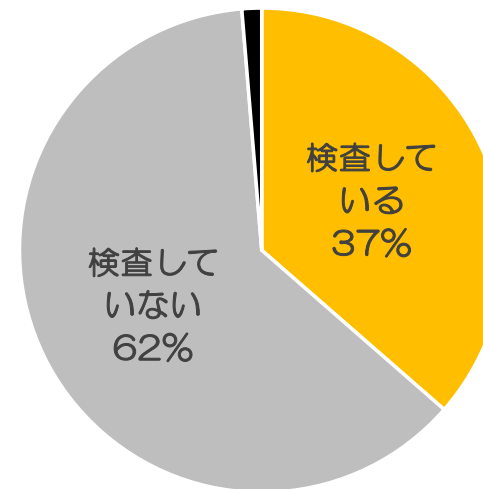
分娩のため入院する無症候妊婦に対する PCR検査（スクリーニング検査）

【病院】



n=610

【有床診療所】



n=678

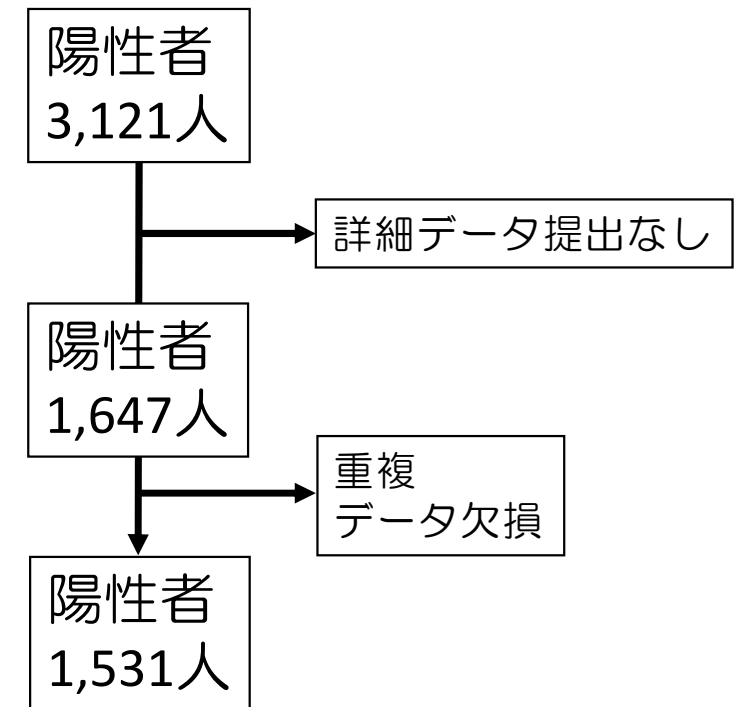
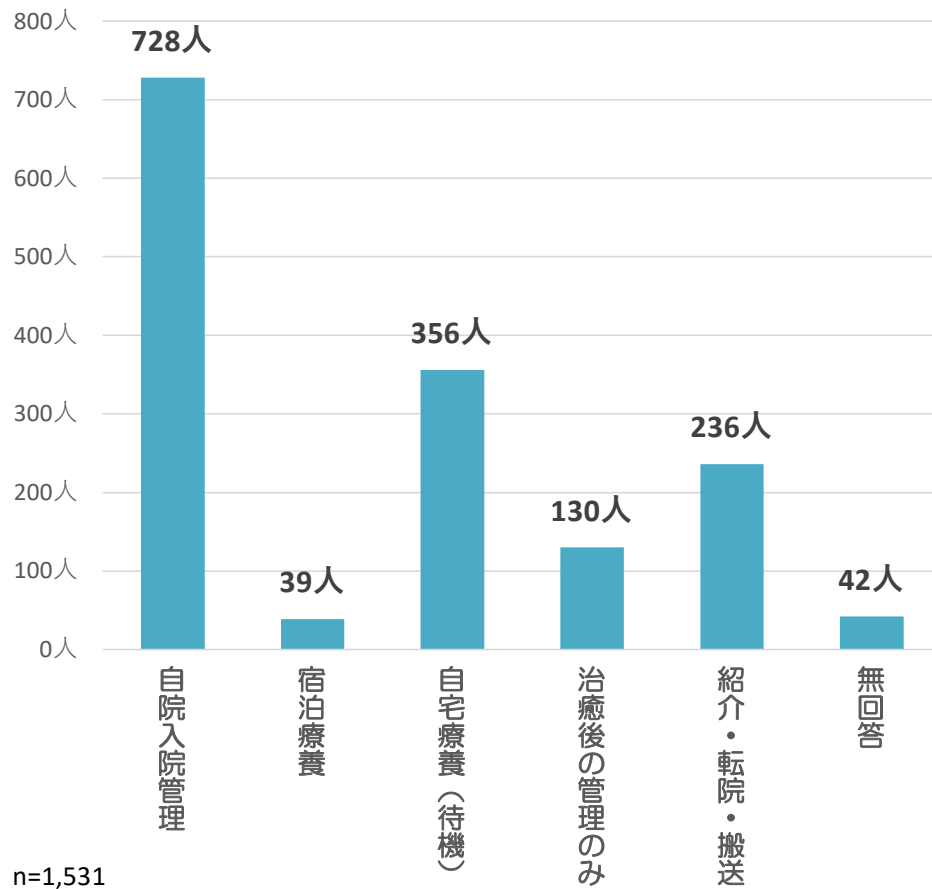
陽性 101人 / 検査 123,397人 (陽性率：0.08%)

COVID-19感染対策と対応について 小 括

- COVID-19と確定診断された妊婦が妊娠37週以降に陣痛発来・破水した場合の分娩様式は、大多数が感染適応の帝王切開であったが、濃厚接触者では、その対応は分かれた。
- 分娩取り扱い施設の約半数が、COVID-19のスクリーニング検査を実施しており、その陽性率は0.08%であった。

COVID-19確定患者についての調査

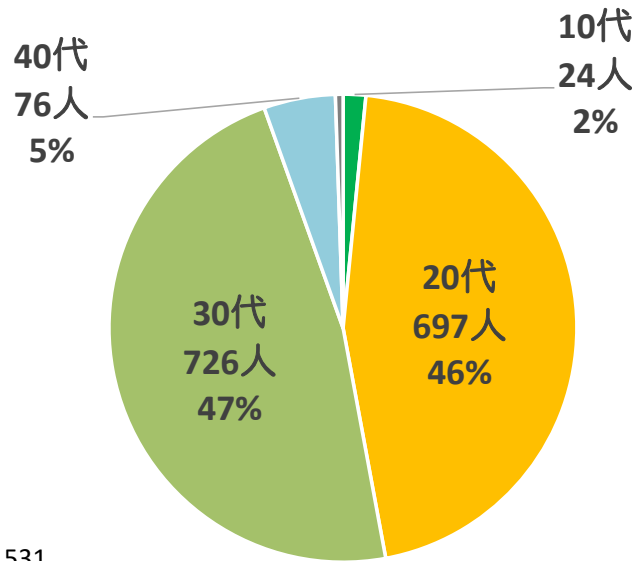
1,531人の管理方法



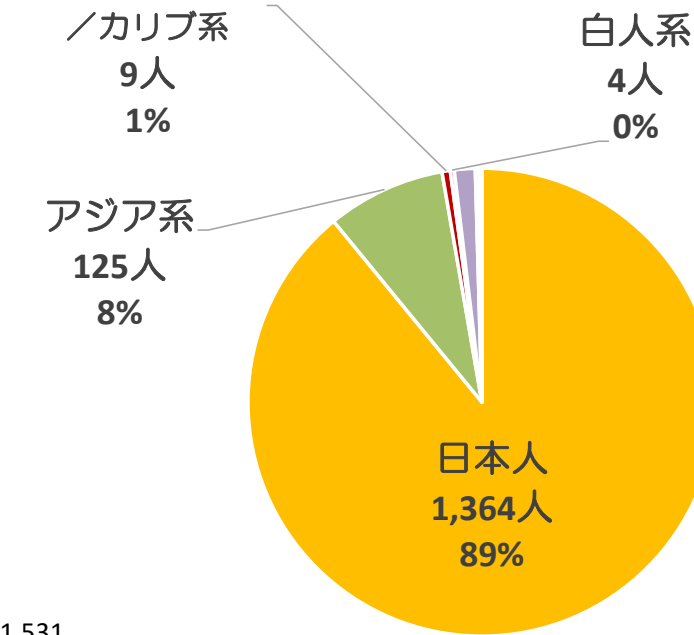
対象施設の年間分娩数：255,495人
罹患率：0.6% $(1,531/255.495 \times 100)$

COVID-19確定患者の詳細について

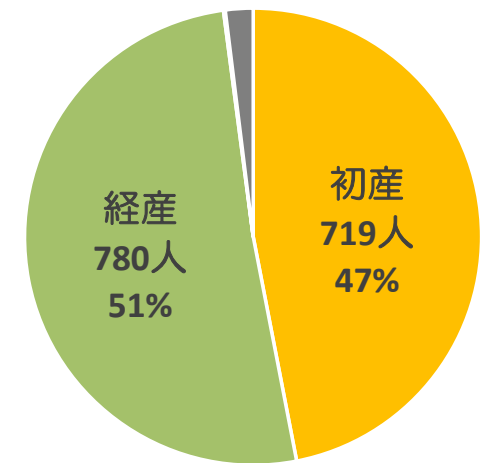
年齢（歳）



人種

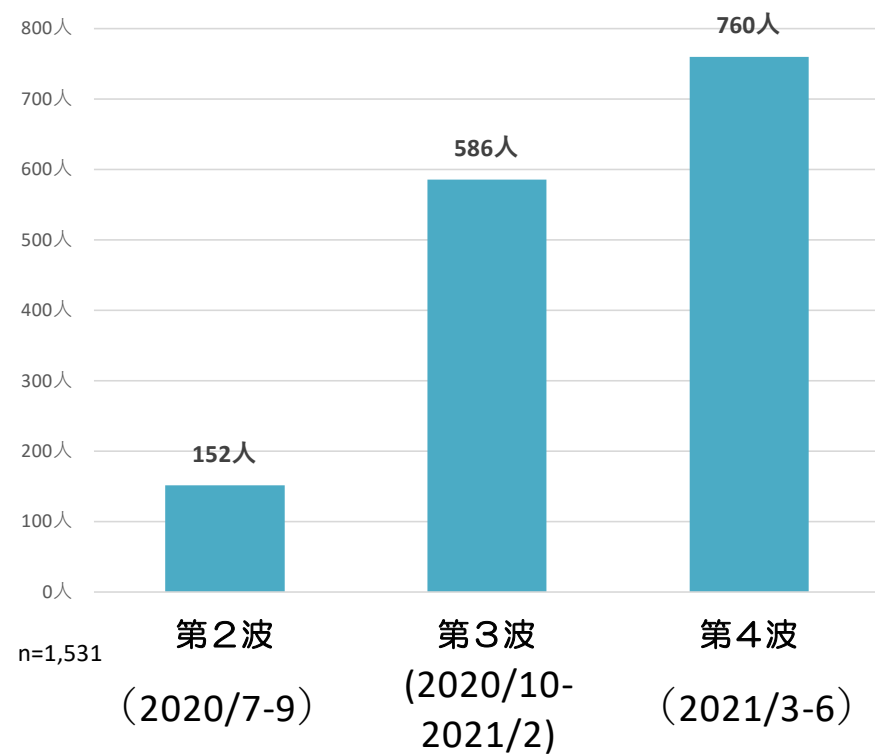


妊娠歴



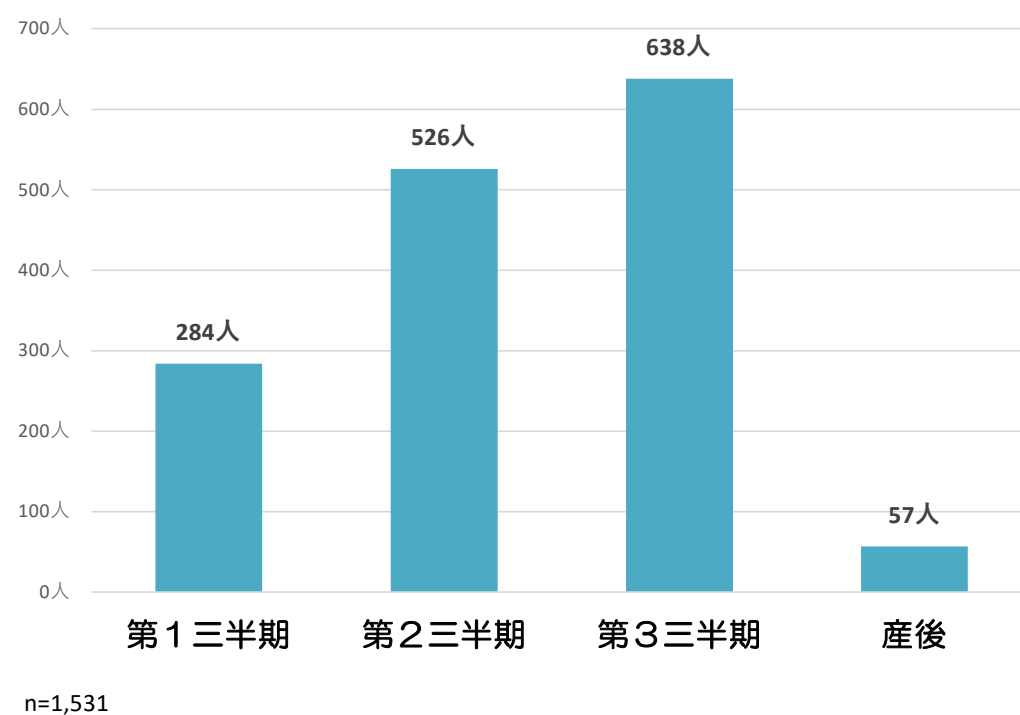
COVID-19 感染妊婦の診断時期

感染流行時期別



不明、無回答を除く

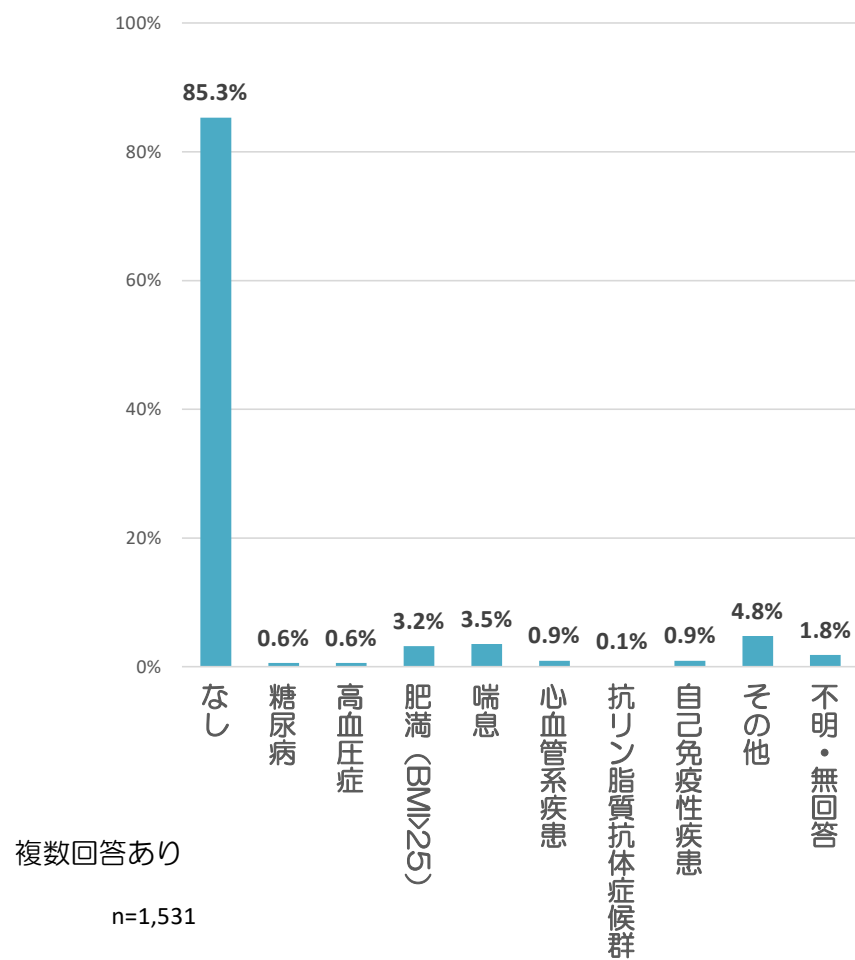
妊娠時期別



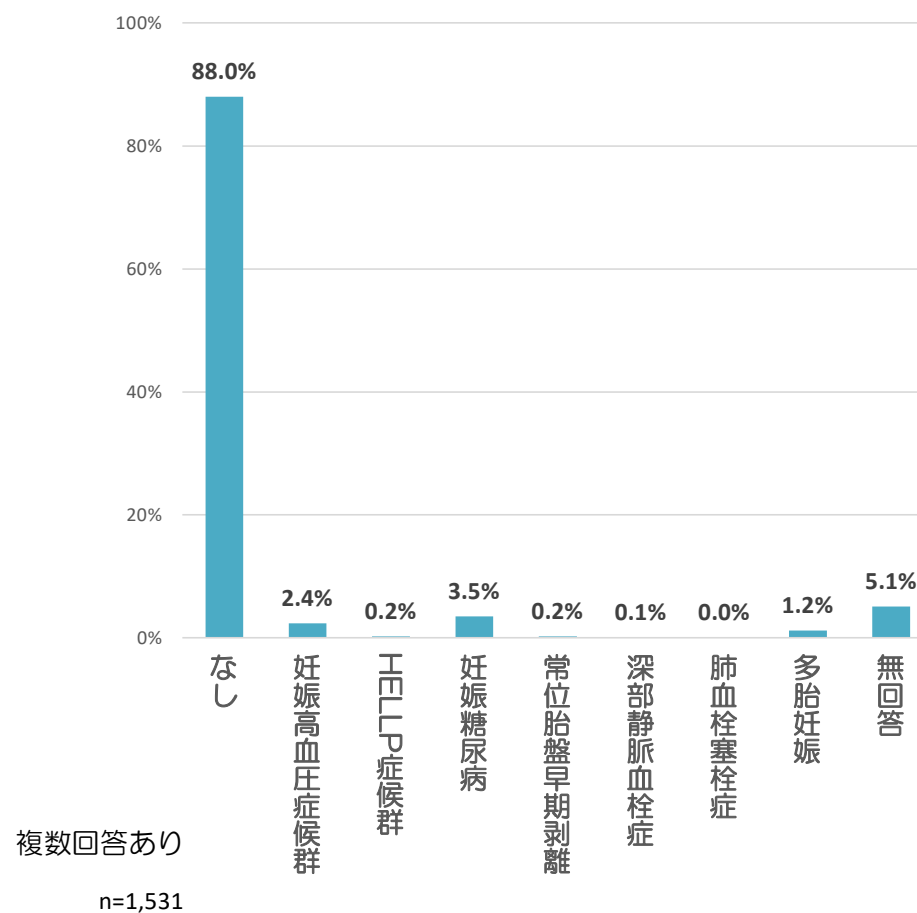
不明、無回答を除く

COVID-19感染妊婦の特徴

既往歴・合併症

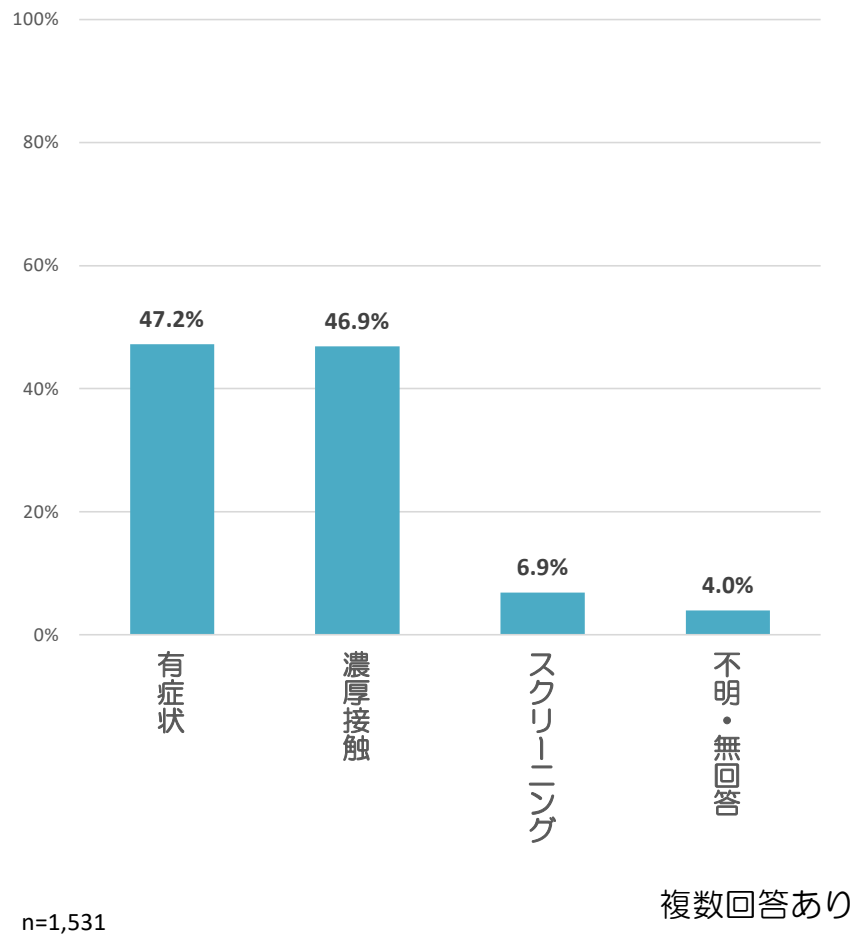


妊娠・分娩異常

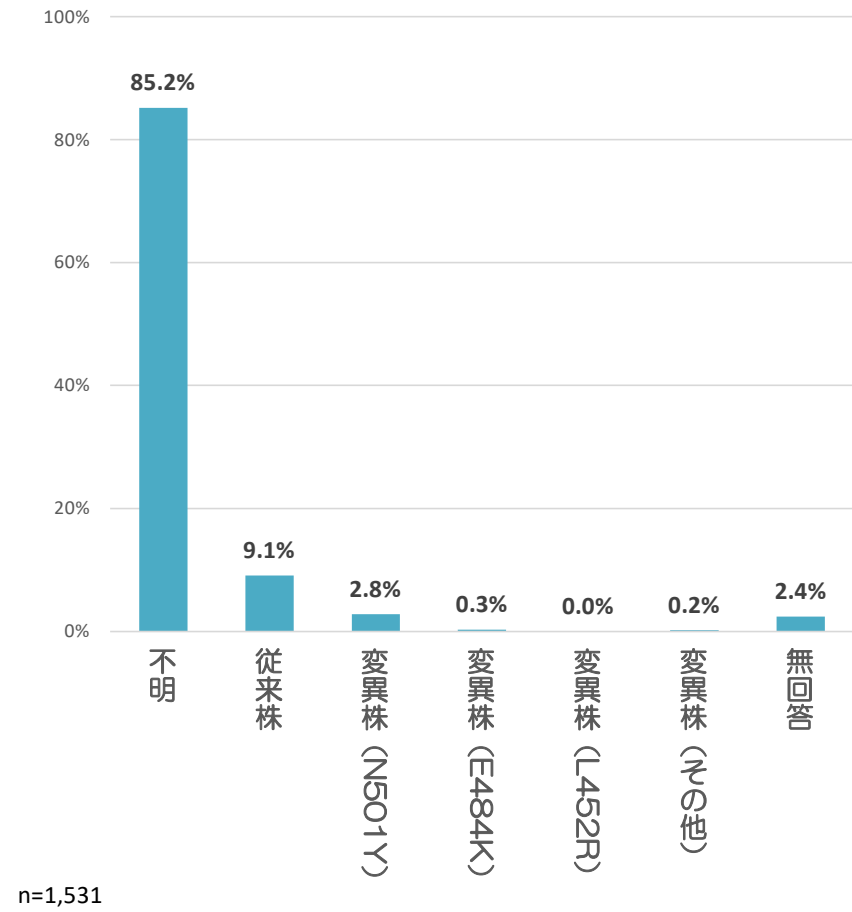


検査理由・ウイルス型

検査理由

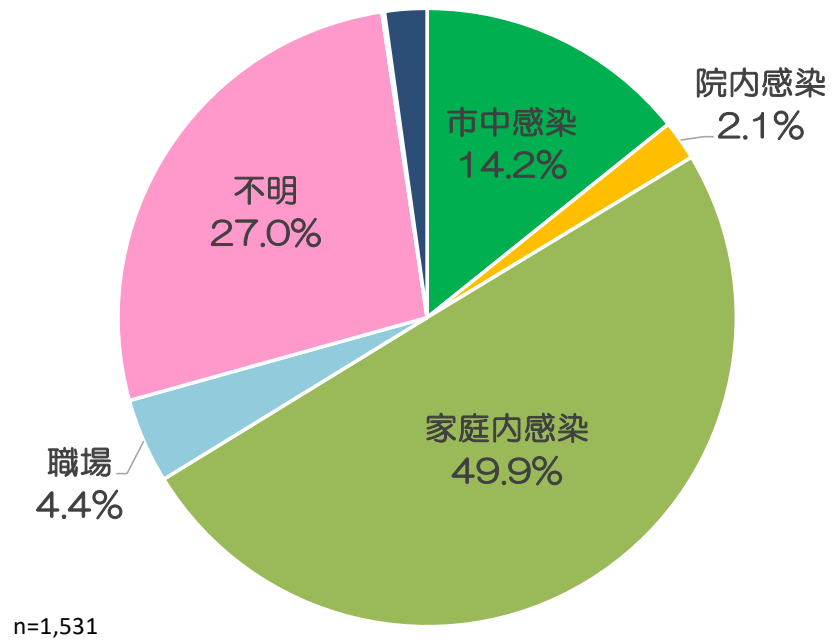


ウイルス型

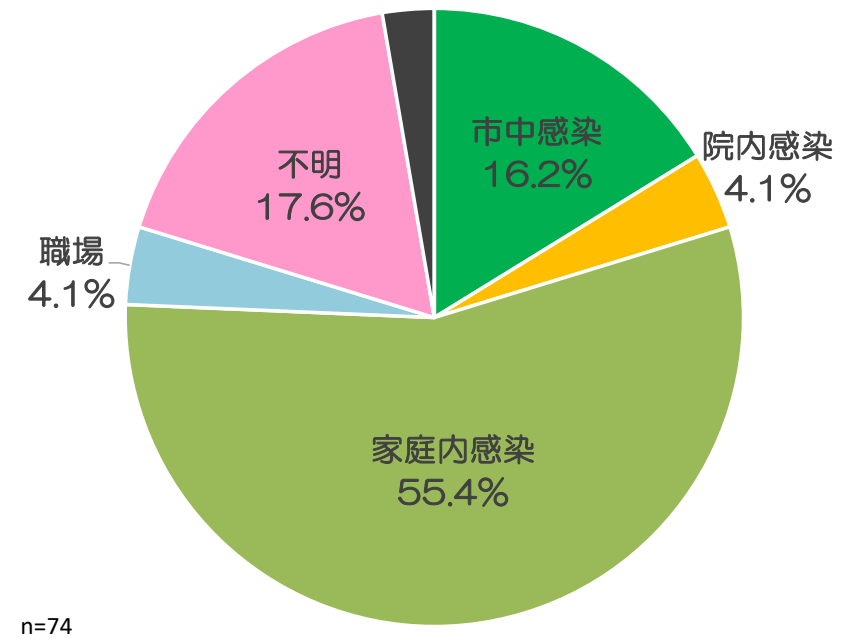


感染経路

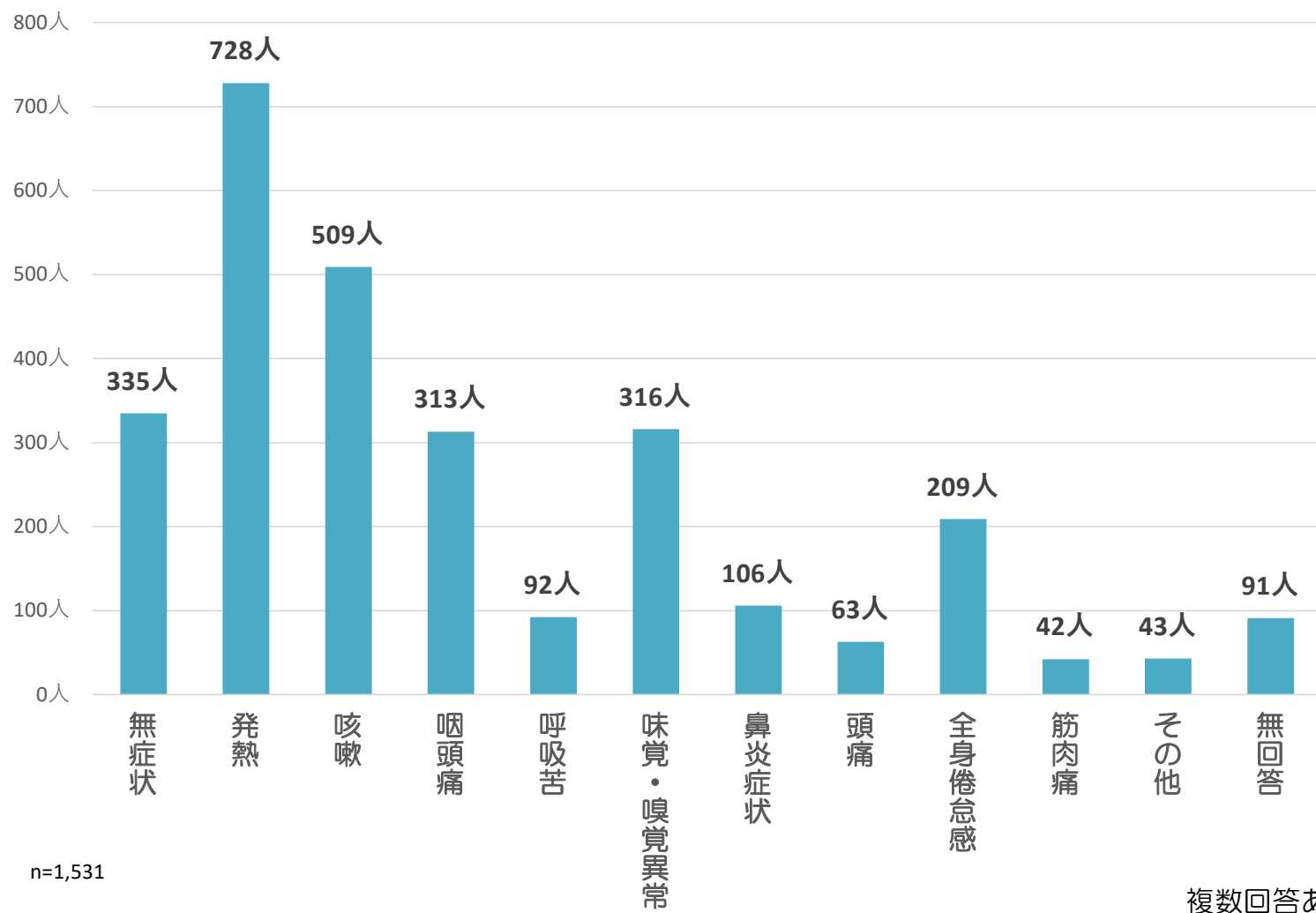
第2～4波



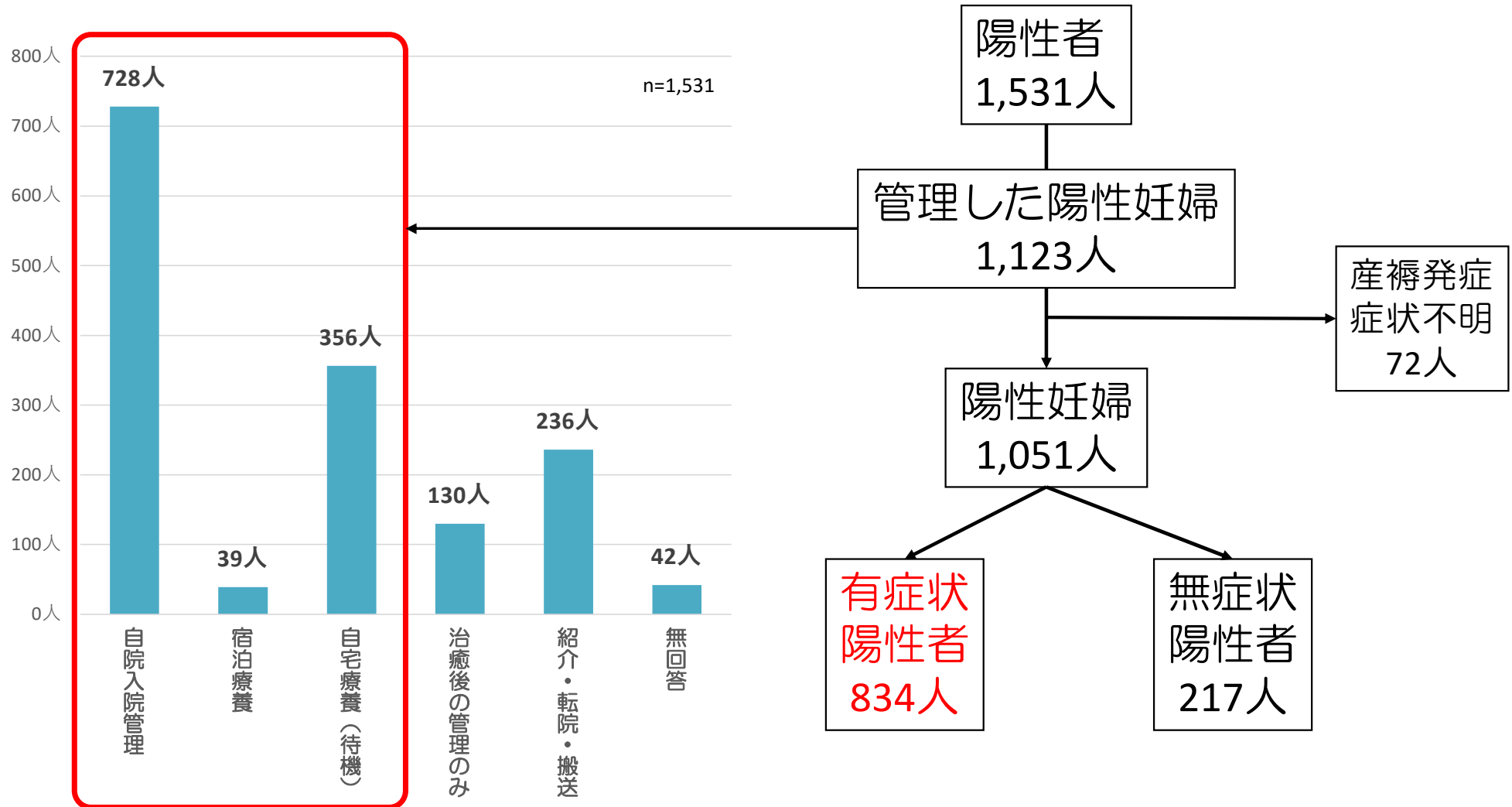
第1波



経過中の症状

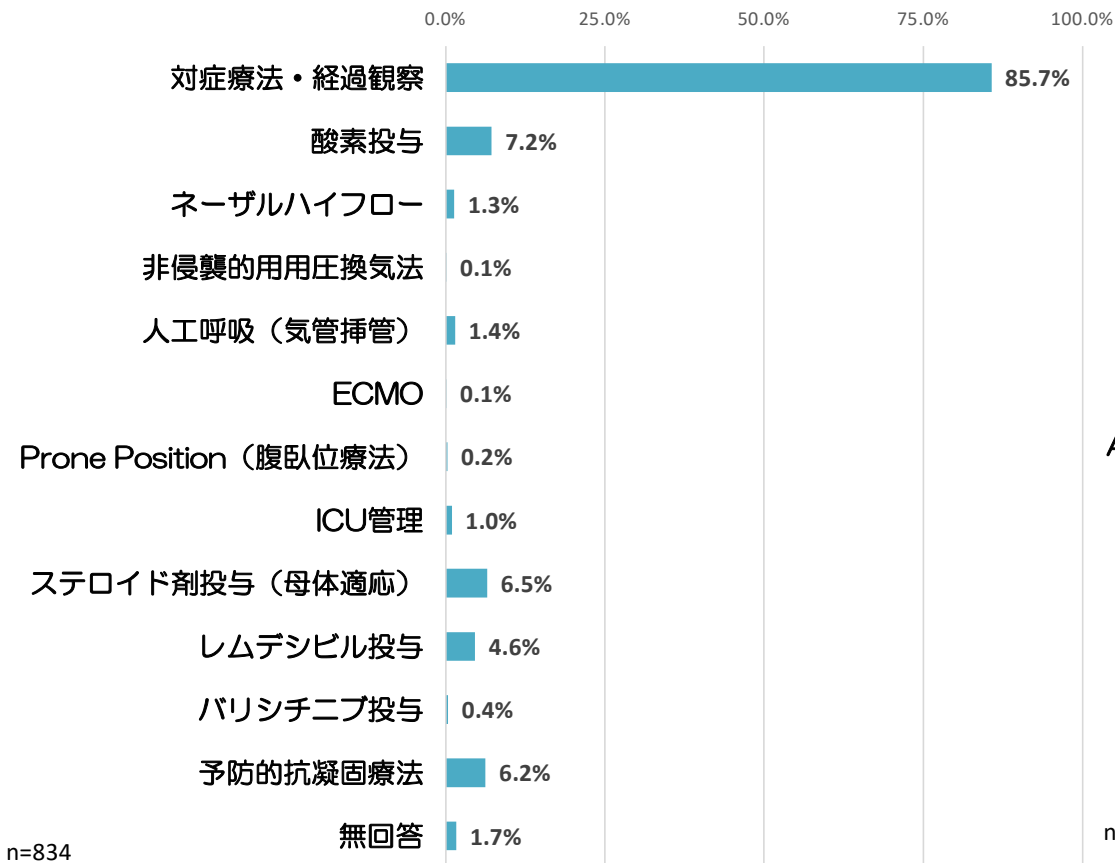


管理を行なったCOVID-19感染妊婦（病状経過のわかる有症状患者）

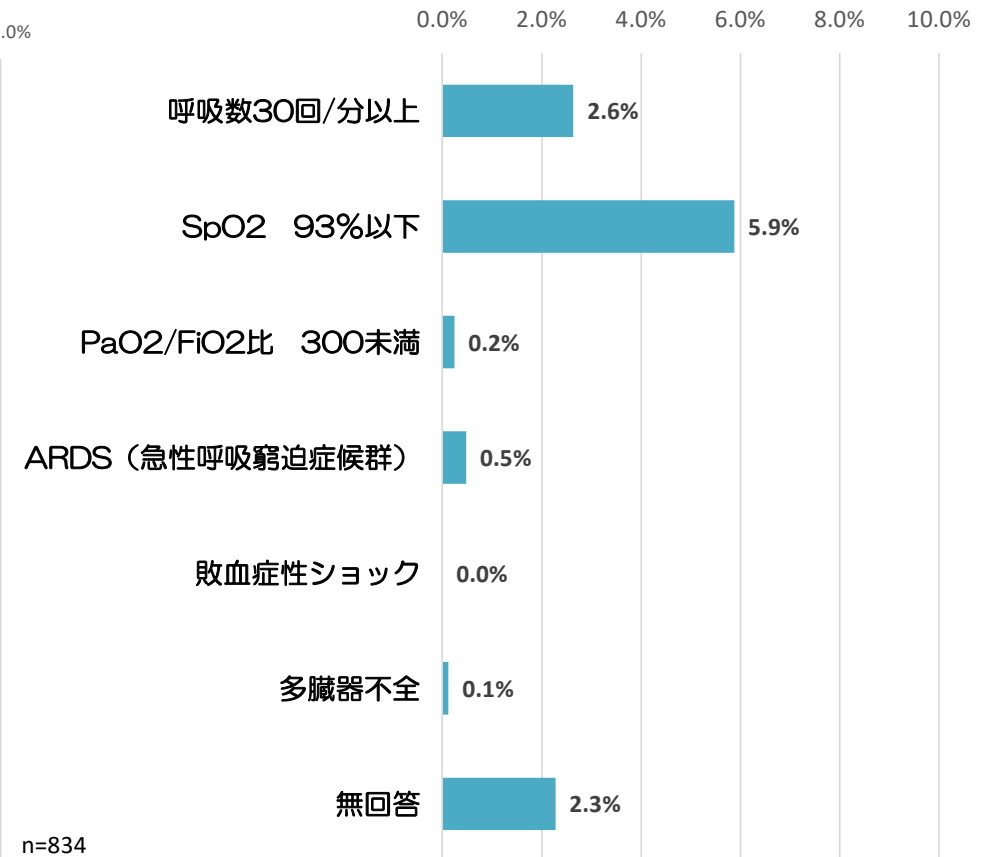


治療内容と重篤な症状

治療内容 <複数回答>



経過中の重篤な症状 <複数回答>



重篤な症状（有症状患者）

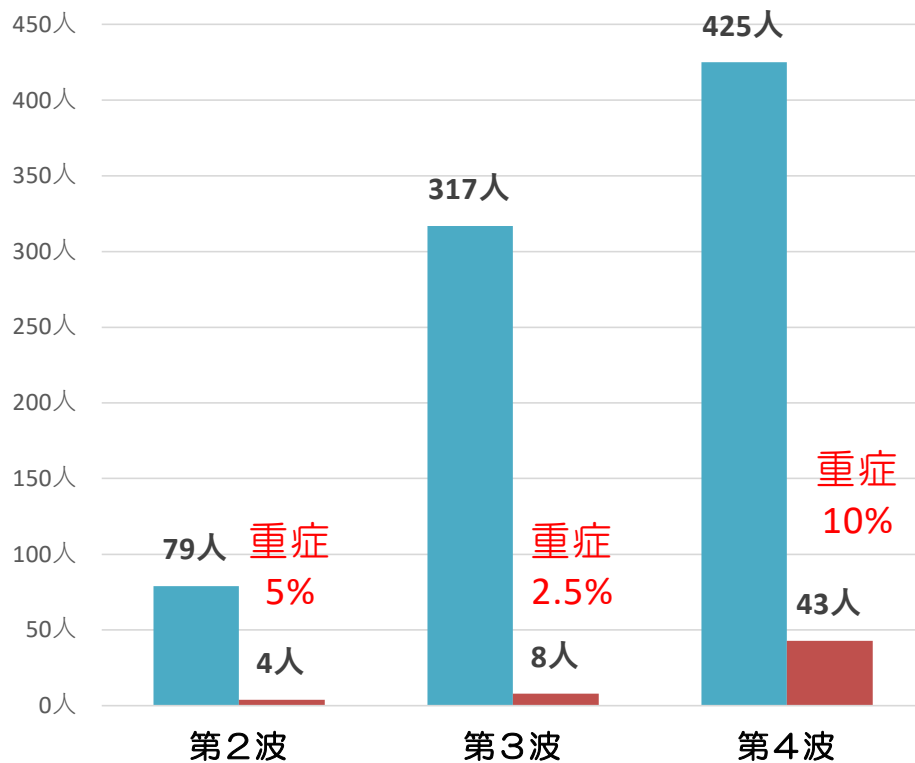
感染第2-4波の転機 n=834		感染第1波の転機 n=58	
死亡	0人 (0%)	死亡	1人 (1.7%)
最重症	5人 (0.6%)	最重症	1人 (1.7%)
重症以上	56人 (6.7%)	重症以上	5人 (8.6%)
中等症以上	69人 (8.3%)	中等症以上	10人 (17.2%)

【定義】

- 最重症 : 多臓器不全、ARDS（急性呼吸窮迫症候群）
- 重症 : 呼吸不全
- 中等症 : 酸素投与を要する症例

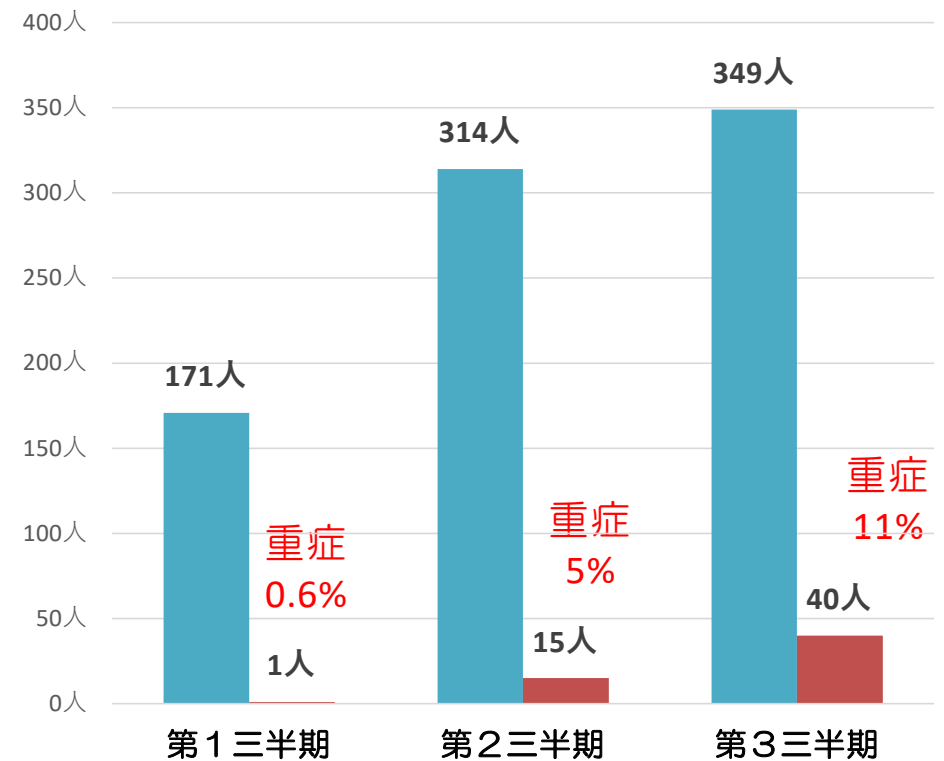
有症状COVID-19 感染妊婦の重症例

感染流行時期別感染妊婦数



n=834 不明、無回答を除く

妊娠週数時期別感染妊婦数

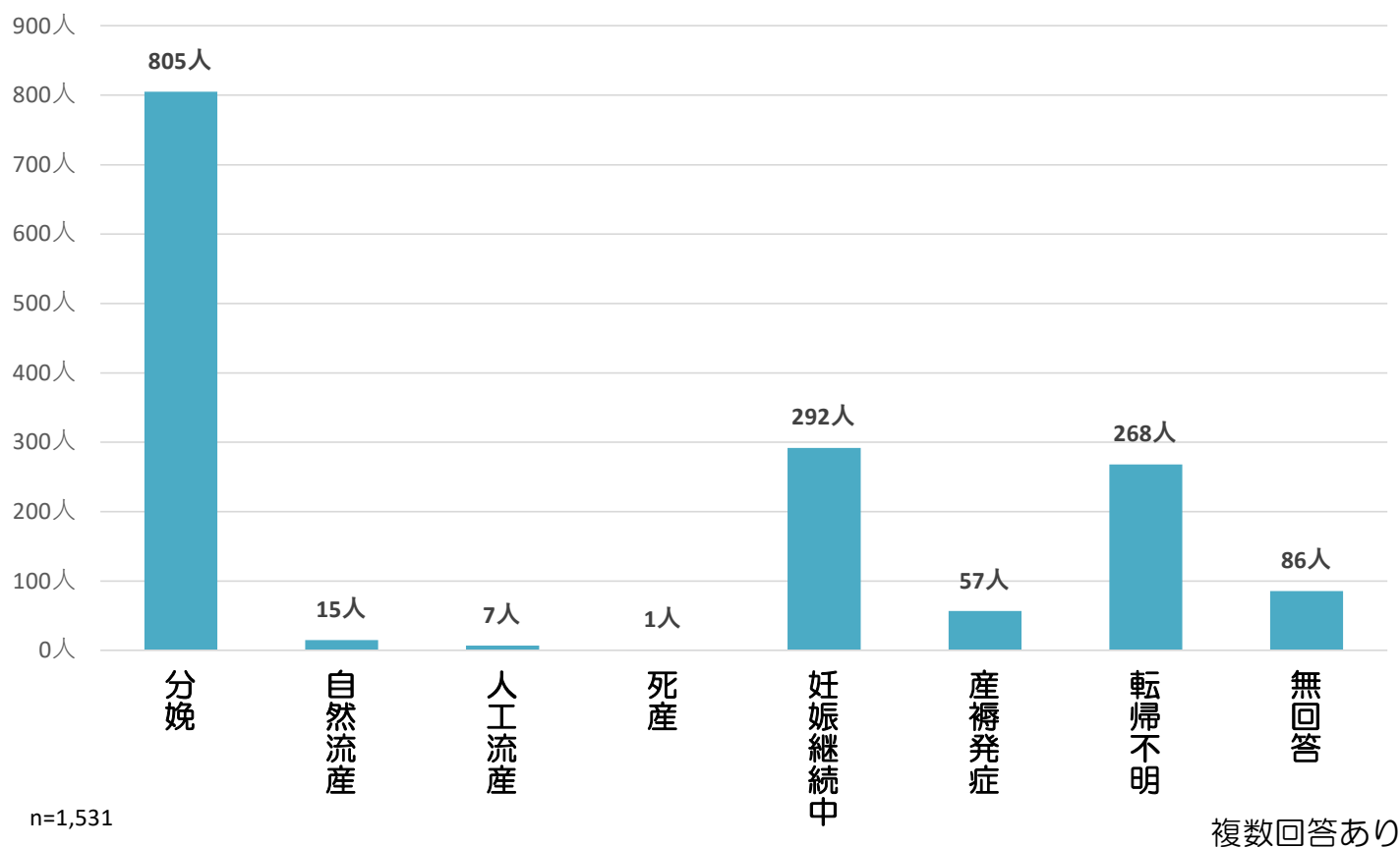


n=834 不明、無回答を除く

重症化リスク因子

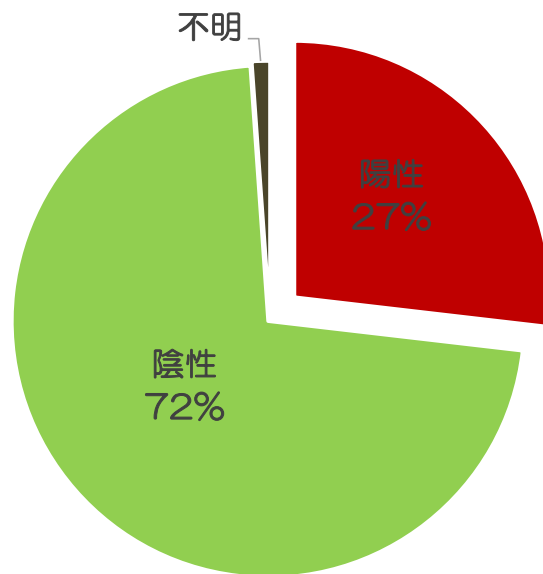
因子	重症例 n=56		その他 n=778		p-value	調整オッズ	95%信頼区間
32歳以上	37	66%	310	40%	< 0.01	2.5	1.4-4.5
妊娠24週以降	50	89%	402	52%	< 0.01	7.0	3.2-18.5
糖尿病	2	4%	6	1%	0.10		
高血圧	2	4%	4	1%	0.06		
肥満 (BMI>35)	5	9%	27	4%	0.06		
喘息	4	7%	28	4%	0.17		

COVID-19感染妊婦の妊娠・分娩転帰



分娩妊婦の転帰 n=805

陽性管理中に分娩：216人
軽快後に分娩：580人
不明：9人



COVID-19感染管理中の分娩例

転帰	n=216	%
早産	< 28週	5 2.3%
	< 34週	19 8.8%
	< 37週	52 24.1%
分娩様式	経膣分娩	24 11.1%
	誘発分娩 (産科適応)	1 0.5%
	誘発分娩 (感染適応)	7 3.2%
	帝王切開 (産科適応)	26 12.0%
	帝王切開 (感染適応)	146 67.6%
	不明	12 5.6%
新生児感染	0	0%
母乳投与 (直接、搾乳、混合)	65	30.1%
母児分離なし	3	1.4%

COVID-19感染妊婦に関する調査 小 括

- 第2-4波の期間に1531人のCOVID-19感染妊婦が報告された。
- COVID-19感染妊婦の11%は日本人以外で、8%分は日本人以外のアジア人であった。
- 感染者数の増加にともなって妊婦の感染者数も増加した。
- 感染は、高年齢、妊娠末期の妊産婦で重症化しやすい傾向があった。
- 感染妊婦で分娩管理を要する例が216人いた。
- 新生児感染例はなかった。

本調査のまとめ

1. COVID-19感染拡大の第2波、第3波、第4波と感染妊婦の数は増加している。感染妊婦の管理を行う産科医療施設の分娩数の1%に感染妊婦が発生すると考え、病床の確保を行う必要がある。
2. 第2波、第3波、第4波と次第に重症化する妊婦の割合が増加しており、次の感染拡大の局面では、さらなる産科医療の逼迫に警戒する必要がある。
3. 妊婦のCOVID-19感染では、妊娠末期の発症する例、分娩管理を要する例が増加傾向にあり、感染妊婦の分娩に対応できる施設の確保が必要である。

謝辞

- アンケートにご返答いただいた多くの医療施設の関係者の皆様、
ならびに日々COVID-19の感染予防・治療に取り組みながら
妊産婦の管理にご尽力されている医療者の皆様に感謝の意を表
します。